

7月のイベントカレンダー

1	月	休館日
2	火	13:30 日本語サロン
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	13:30 ハローワールドクラブ
7	日	休館日
8	月	休館日
9	火	13:30 日本語サロン
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	13:30 ハローワールドクラブ
14	日	10:00 子ども日本語ひろば
15	月	休館日
16	火	13:30 日本語サロン
17	水	
18	木	
19	金	
20	土	13:30 ハローワールドクラブ
21	日	休館日
22	月	休館日
23	火	13:30 日本語サロン
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	13:30 ハローワールドクラブ 13:30 情報紙発送作業
28	日	会員交流会 ※事務所臨時閉館
29	月	休館日
30	火	13:30 日本語サロン
31	水	

会津若松市国際交流協会

〒965-0871 会津若松市栄町2-14
レオクラブガーデンスクエア5階
TEL 0242-27-3703 FAX 0242-27-3704
ホームページ <http://awia.jp> メール mail@awia.jp

ホームステイ受入れ家庭募集

会津大学でのプログラム参加のため来日する、タイの大学生の宿泊受入れ家庭を募集します。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。
期間 8月24日（土）朝～8月26日（月）朝までの2泊3日間
募集家庭 7家庭 ※語学力は問いません。
謝礼 食費程度の謝礼を用意します。
申込締切 7月19日（金）※但し定員になり次第終了
申込・問合せ 公立大学法人会津大学学生課（担当：羽染）
TEL 0242-37-2600（内線6123）Eメール sad-aas@u-aizu.ac.jp

ふくしまグローバルアドベンチャー2019

全国に2か所だけの青年海外協力隊の訓練所で、オリエンテリングやワークショップを通じて世界について学びます。当日は二本松駅からJICA二本松訓練所まで送迎バス（スタッフ同乗）をご用意しております。詳細はお問い合わせください。
日時 8月3日（土）10:15～17:00
場所 JICA二本松青年海外協力隊訓練所
対象 中学生・高校生（45名程度）
参加費 1000円（昼食代込み）
問合せ・申込み JICA二本松（菅野・星）
申込締切 7月19日（金）
TEL 0243-24-3200
Eメール Kanno-Chisato@jica.go.jp Hoshi-Akihiko@jica.go.jp

世界に伝えたい「私の福島」
フォトコンテスト2018写真集

福島県国際交流協会では、福島県内の外国人の皆さんのが故郷（出身国）や世界に伝えたい福島の魅力や暮らしを伝える写真とメッセージを募集し、入賞作品に選ばれた作品を会津若松市にて展示しています。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。
場所 東邦銀行会津支店（福島県会津若松市大町1-10-28）
開催日 6月12日（水曜日）～1ヶ月間

国際理解×日本語

外国出身の皆さんの日本語学習の手伝いをしながら、外国出身の方が語る国際理解のプレゼンテーションを作る研修に参加しませんか。日本語教育の経験がなくても大丈夫です。詳細はお問い合わせください。
日時 ①8/25(日)13:30～16:30 ②9/8(日)10:00～16:00
③10/5(土)10:00～16:00 ④10/27(日)13:30～16:30
※③の日時は予定です。最後に実習を予定しています。
場所 ①、②、③ 蓬萊学習センター ④ 福島県国際交流協会
主催・お問合せ・申込み 蓬萊日本語教室

情報誌発送手伝い

おしゃべりをしながら、情報紙の発送作業のお手伝い（封づめ、糊付けなど）をしませんか。当日直接協会へお越しください（申込不要）。
日時 7月27日（土）13:30～
場所 当協会

会津若松市国際交流協会 情報紙

FINE

Freedom/International/Necessity/Experience

小鳥のさえずりを聞きながら、森を散策しませんか？
山と湖と森の「国立磐梯青少年交流の家」へGO！

お待たせしました。夏の会員交流会のご案内です。行き先は、山も湖も森も楽しめる「磐梯青少年交流の家」。磐梯山の麓にあり、眼下には絶景の猪苗代湖が広がります。東京ドーム約4倍の敷地内には108種類の樹木があり、かわいい草花や動物に出会えます。午前中は、樹木を探すオリエンテリングを行います。グループを作つて行いますので、初めて参加される方も、すぐに国籍や言葉を越えた新しい仲間ができます。午後は館内で、卓球などの軽スポーツを楽しみます。深緑の中、小鳥のさえずりを聞きながら日頃の疲れをリフレッシュしませんか？ご家族、お友達をお誘いの上、ぜひご参加ください。



夏の会員交流イベント

日時 7月28日（日）10:00～15:00
場所 「国立磐梯青少年交流の家」及びその周辺（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原7136-1）
※9:50に「国立磐梯青少年交流の家」正面玄関前にお集まりください。
現地集合、現地解散。無料駐車場有り。
※猪苗代駅と交流の家の間は無料の送迎バスがでます。乗車希望の方は、申込時に受け付けています。
JR磐越西線【行き】会津若松駅 9:09発 → 猪苗代駅 9:36着
【帰り】猪苗代駅 15:36発 → 会津若松駅 16:09着
内容 午前：樹木オリエンテーリング（屋外） ※雨天時：宇宙文字オリエンテーリング（屋内）
午後：軽スポーツ（体育館）
参加費 会員：500円（ランチ代） ※保険代は協会負担 会員外：800円（ランチ代と保険代）
小学生以上：500円 3歳以上：400円 3歳未満：無料
昼食 施設内食堂（事前予約のため、当日のお申し込みはできません。）
持ち物 運動靴（森の散策用）、上履き（軽スポーツ用）、水分、雨具、帽子、防寒具、汗拭きタオル、虫よけグッズ、虫刺され薬、ゴミ袋
申込締切 7/20（土）までに、当協会へお申込みください。TEL 0242-27-3703 Eメール mail@awia.jp
※天候が不安定な場合は、前日27日17時までに開催の有無を決定し、申込者へご連絡します。
※当日キャンセルされた場合は参加費をいただきます。当日緊急連絡先 TEL 070-6492-3262

◆7月28日（日）は、会員交流イベントのため当協会事務所を臨時閉館いたします◆

香港の大学生のホームステイ受入れ家庭を
引き続き募集中です！

6月号のFINEでもお伝えましたが、香港理工大学の学生が会津大学にやってきます。協会では引き続き、宿泊の受入れをしてくれるご家庭を募集しています。個人差はありますが学生たちは英語も話します。

会津大学での研修が実りあるものになるよう、皆様のご協力をお願いします。ホームステイ受入れについて、ご不明な点がある方は、協会までお気軽にお問い合わせください。

期間 8月17日（土）の夕方～8月18日（日）夜
(1泊4食をお願いします。)

募集家庭 15家庭
内容 香港理工大学学生のホームステイ受入れ
謝礼 食費程度の謝礼を用意します。
問合せ・申込み 当協会まで
申込締切 7月20日（土）※但し定員になり次第終了
TEL 0242-27-3703 Eメール mail@awia.jp



おいしいニュージーランド いたしました！

5月25日(土)に21人が参加して「地球ちょい旅 ニュージーランド編」が開催されました。ニュージーランド出身の講師のデヴォン・グレイさんからレモン・カード、レモン・スライス、ベーコン・エッグパイの作り方を教わりました。「全部、すっごく美味しかった！」と好評でした。レモン・カード(curd)とは英語で“凝固する”という意味です。作り方はとってもシンプルだけれど、アレンジ次第でパンケーキやチーズケーキにも使えるそうです。

参加者の一人がニュージーランドのフォークソングを歌つたら、デヴォンさんが歌ってくれて、楽しい「ちょい旅」になりました。

稽古堂のクッキングスタジオにて



ロシアで暮らす ~思いやりの心を持って~

Yamauchi Yukari
山内 ゆかり さん



ドゥブナ市を流れるヴォルガ川のほとりにて

ロシアのドゥブナ市で子育て中の山内さん。子どもたちの夏休みを利用して生まれ故郷の会津に里帰りし、当協会の会員に仲間入りしました。3人のお子さんは元気いっぱい！会津の食べ物や文化を楽しんでいます。

私は2001年、東京で1年働いた後、研究職をしているロシア人の夫と共に、ロシア連邦モスクワ州ドゥブナ市に住み始めました。ドゥブナ市は首都モスクワから北へ125km、ヴォルガ川にぶつかる所にあります。人口は7万5千人。市内に、ヴォルガ川に掛かる橋が2つあって、市は川の両岸に広がっています。ドゥブナには大きな研究所があり、私と夫を含め、市民の多くが研究所関連の仕事をしています。

緑が多く、夏はヴォルガ川で泳いだり、川沿いの人口砂浜で日光浴したりする方が多いです。冬は-5度から-25度と寒いですが、10/1から4/30までセントラルヒーティングでの家の中は+25度から+28度位に保たれていています。

ドゥブナ市には、ロシア人だけでなく、旧ソ連の国やヨーロッパ、アジア、アフリカなど、様々な国の人々が住んでいます。多くの方が日本人や日本文化に好印象と興味を持っています。日本出身と言うと快く迎えてもらえることが多く、努力してきた日本人にいつも感謝と尊敬の念を覚えます。テレビでは良く日本に関する番組が放映されています。今日は日本の幼稚園の様子が紹介されたようで、知り合い達は、園児の見事な集団行動、礼儀正しさ、一日中裸足で過ごしていることに驚いていました。日本について様々な質問をされますが、私が知らない内容が多く、インターネット検索に助けられています。

ドゥブナ市立の学校に長女16、次女14、長男11が通っています。ロシアの学校は夏休みが6/1から8/31まで3ヶ月あります。さらに数年前から週休2日になりました。部活

動などの放課後の活動があまり無く、学校内で過ごす時間が日本より極端に少ないため、子どもがどう過ごすかは日本以上に親に委ねられています。習い事やサークルに通って忙しい子もいれば、時間を持て余しているように見える子もいます。

先日、ドゥブナ市の小さな図書館で灰谷健次郎氏著『兎の眼』のロシア語翻訳版を見つけました。村上春樹氏以外の日本の本を見かけるのは珍しいです。装丁が美しくまだ新品で、長女に見せようと借りました。長女は2日で読み終え、「驚いた、凄い本だった」と感想を述べました。娘に好評だったので、ドゥブナ市に住んでいるブルガリア出身の友達にも勧めたら、彼女にも興味深い内容だったそうです。わたしはロシア語で読むことには挫折し、今、会津図書館から借りて日本語で読んでいます。

今私は、日本に居てもロシアに居ても、他人を思いやる人々と、自分も他を思いやりながら過ごす時に幸せだと感じます。ロシアで不安に感じるのは、ロシア語が不自由な為に伝えたい事が伝わらない時や情報が思うように得られない時、その為に孤立したと感じる時です。それを考えると、言葉に不自由している在日外国人を、日本語指導と情報収集においてサポートしている国際交流協会が、彼らに与えている安らぎは大きいだろうと思います。そして、協会のスタッフさんやボランティアの方々が、まさに他を思いやる精神で取り組んでおられる感じています。今回、協会を訪ねて、昔は知る由も無かった故郷会津若松の一面を知ることができました。

ホセさんが故郷へ帰ることになりました。いつも優しく紳士的で、協会のイベントを熱心に手伝ってくれたホセさん。ぜひまた会津に遊びに来て下さい。

*Hasta la vista!
また逢う日まで*

ホセ マニュエル ティス モラレス さん

Hola! ホセと申します。日本で働いているメキシコ人です。会津に来て1年になります。会津の優しい人たちのお陰で、楽しい思い出がたくさんできました。今は来て良かったと思いますが、最初はそうではなかったです。

去年の3月に、会津に1人引っ越ししてきました。知り合いが1人もいなくて、とっても寂しかったです。道に雪が積もっていて、とっても寒く、銀行やお店などは、どこにあるのかわからなかったです。よく道に迷いました。「すぐ帰国したい」と思いましたが、そのうちに明るいポスターを見つけ、会津若松市国際交流協会について知りました。そこには、色々な楽しそうなイベントなどが書いてありました。行ってみようと思ったけれど、恥ずかしがり屋の性格で、ずっと緊張していました。

実際に国際交流協会へ行った時には、一生忘れられない笑顔で歓迎されました。暖かいお茶を飲みながら、私の国について色々聞いてくれました。その頃から気候も暖かくなってきました。色々な賑やかな楽しいイベントに誘ってもらい、すごく優しい日本人と外国人に出会いました。ボランティア活動で会津の観光地について学んだり、会津の物づくりを体験したり、色々な国の文化や料理を紹介してもらったり、楽しい時間をすごしました。

本当にあつという間に一年がたち、帰国することになりました。今は「すぐ帰国したい」という気持ちはなくなり、「ここにずっと居たい」と思うようになりました。いつか会津に戻れるように頑張りたいと思います！
みなさん、本当にありがとうございました。



新年ポットラックパーティー

「おけいの子守唄」アメリカの空に届け

Meguro Rumiko
目黒 留美子 さん

6月8~9日に、米国カリフォルニア州エルドラド郡の入植地「若松コロニー」で、入植150周年を祝う「若松フェスタ150」が開催されました。会津から34名の訪問団が渡米し、「記念式典」と「おけいの追悼式」に参加しました。訪問団事務局の目黒留美子さんに、現地での様子やおけいのお墓の前で合唱した時のお話を伺いました。

今回特に感じたのは、若松コロニー、そして「おけい」の存在が、現地の日系社会にとって非常に大事な存在になっているということです。最初にアメリカ本土に渡った日本人として、また、後に続く日系移民が米国で信頼される礎を築いた先駆者として敬われ、心の支えになっていると感じました。例えば、「おけい」は「子守りのおけい」ではなく、敬意を込めて「おけいさん」と呼ばれています。記念式典や追悼式でも、日系社会を中心としたたくさんのボランティアたちが一生懸命働いてくれました。彼らの行動の一つ一つから、最初に入植した人々への敬意と感謝の気持ちが伝わってきました。彼らは、私たち会津訪問団のために車を出してくれたり、観光地へ連れて行ってくれたり、暑い日だったので訪問団が熱中症にならないようにテントを用意してくれたり、山の上まで椅子を運んでくれたり、本当によくご配慮いただきました。

訪問団長で会津松平家第15代松平親保さん(20)のスピーチにもありましたが、当時を一生懸命生きた、教科書には出てこないような人々の歴史こそ、守り伝えて行くべきだと思います。フェスタを主催した現地の民間団体ARCが、若松コロニーを歴史ある大事な土地だと考え、守ってくれていることに深く感謝します。おかげで、後世の私たちが素晴らしい出会いを果たすことができました。今回若松フェスタ150では入植者の子孫たちが初めて対面し、感激し合う場面もありました。歴史は未来に続きます。ここからまた新しい歴史が生まれ、交流の輪が広がっていくのでしょうか。

私は合唱団の衣装に着替え、おけいのお墓のある丘の上で、「おけいの子守唄」と「おけいの墓」を歌いました。丘の片隅にひっそりとたたずむ、白く小さなお墓を前にして歌ううち、自然と涙がこぼれました。



カリフォルニア州のおけいの墓の前で